

# 令和6年度 相模原市 下水道の決算

下水道事業の決算をわかりやすく解説します



## 〇はじめに

相模原市の下水道事業は、使用者のみなさまが納めている下水道使用料で、安定したサービスを継続的に提供するため、一般会計から独立した「公営企業」として運営しています。

公営企業の経理では、「企業会計方式」を採用することが義務付けられており、現金の収支に基づく一般会計と異なり、収益と費用を発生した期間に計上する発生主義に基づき経理を行っています。

決算では、1年間の経営成績を表す「損益計算書」や、年度末の財政状態を表す「貸借対照表」など、企業会計方式特有の書類があります。

本書では、みなさまに下水道のお金に関することについてご理解いただくために、下水道事業の決算を分かりやすく解説しています。

## 目次

---

---

1	決算ってなに？・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	・令和6年度決算について	
2	どんな収入があったの？・・・・・・・・	2
3	どんなことに使ったの？・・・・・・・・	3
4	経営状況は？・・・・・・・・	4
	・損益計算書	
	・貸借対照表	
	・経営指標	
5	その他・・・・・・・・	7
	・「利益剰余金」の使いみちは？	
	・なぜ借金するの？	
	・資本的収入の不足を補填する仕組みは？	
	・「長期前受金戻入」「減価償却費」ってなに？	
	・令和6年度に実施した主な事業	

---

---

# 1 決算ってなに？

市が下水道施設の維持管理や整備を計画的に行うためには、どんなことにお金を使うのかあらかじめ決める必要があります。そこで、下水道使用料など（収入）の見積りとお金の使いみち（支出）の計画を1年間のはじめに「予算」としてまとめています。この「予算」に対する結果をみなさまに報告するのが「決算」です。

## ○令和6年度決算について

令和6年度の決算については、下水道施設の維持管理に関するお金（収益的収支）として、下水道使用料や他会計負担金など約158億円(①)の収益があり、維持管理費など約153億円(②)の費用がかかりました。

また、下水道施設の整備に関するお金（資本的収支）として、企業債の借入金や国及び県の補助金など約70億円(③)の収入があり、建設改良費や企業債の返済など約121億円(④)の支出がありました。関連工事の遅延等の影響により年度内に工事が完了しなかったものや継続事業などを合わせて約42億円(⑤+⑥)を、翌年度に繰り越しました。

なお、資本的収入が資本的支出に不足する額は、収益的収入と収益的支出から生じる留保資金などで補填する仕組みとなっています。（詳しくは8ページを参照）

### 予算の執行状況

（単位：百万円 税込）

区 分	予算額	決算額	繰越額	執行率	R5年度
収益的収入	15,807	① 15,813	-	100.0%	99.4%
収益的支出	16,139	② 15,276	⑤ 27	94.7%	89.0%
資本的収入	13,247	③ 7,029	-	53.1%	59.7%
資本的支出	19,363	④ 12,075	⑥ 4,126	62.4%	71.7%

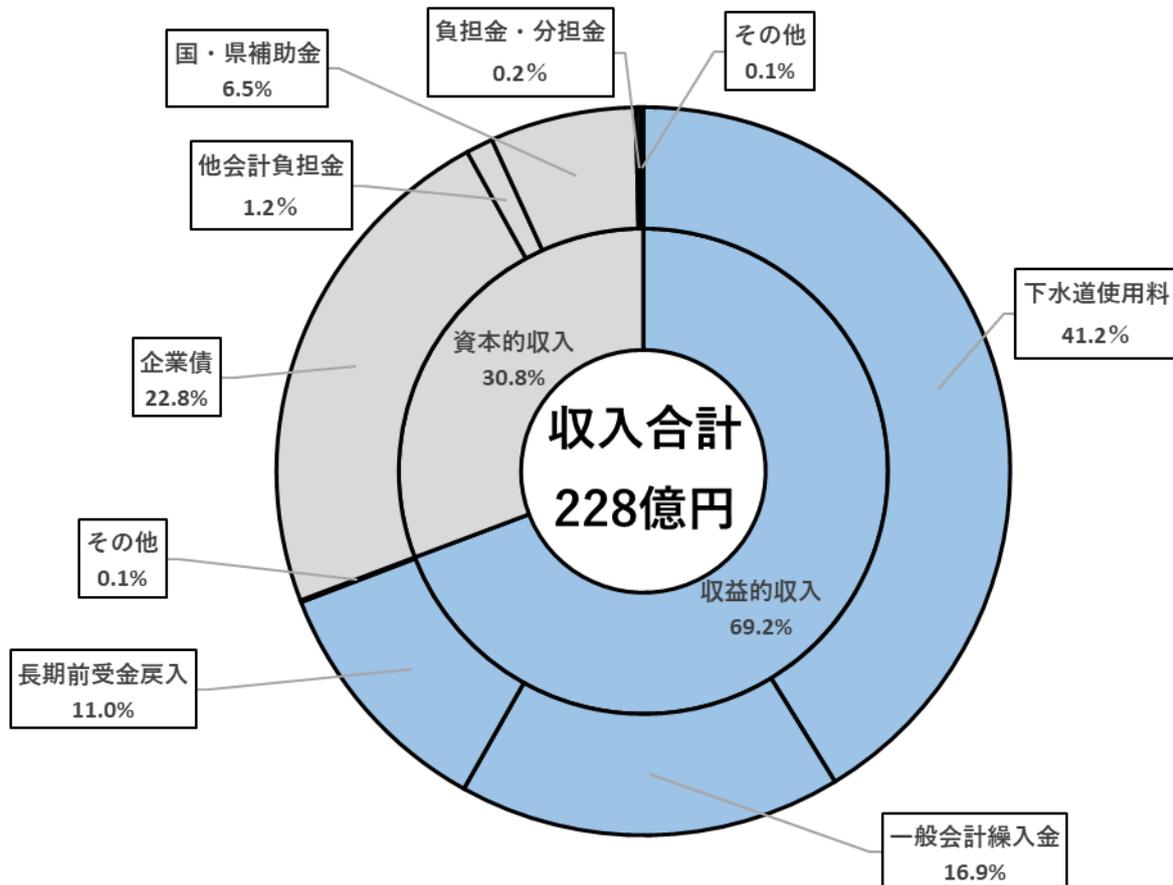
※資本的収入には、令和7年度へ繰り越す支出及び令和5年度分の支出に充てる財源を含む。

## 2

# どんな収入があったの？

下水道事業の収入は、「下水道使用料」が最も大きな割合を占め、このほか、国や県から交付される補助金や借入金（企業債）などがありました。

収入には、下水道施設の維持管理に使う「収益的収入」と下水道施設の整備などに使う「資本的収入」があります。



(単位：百万円 税込)

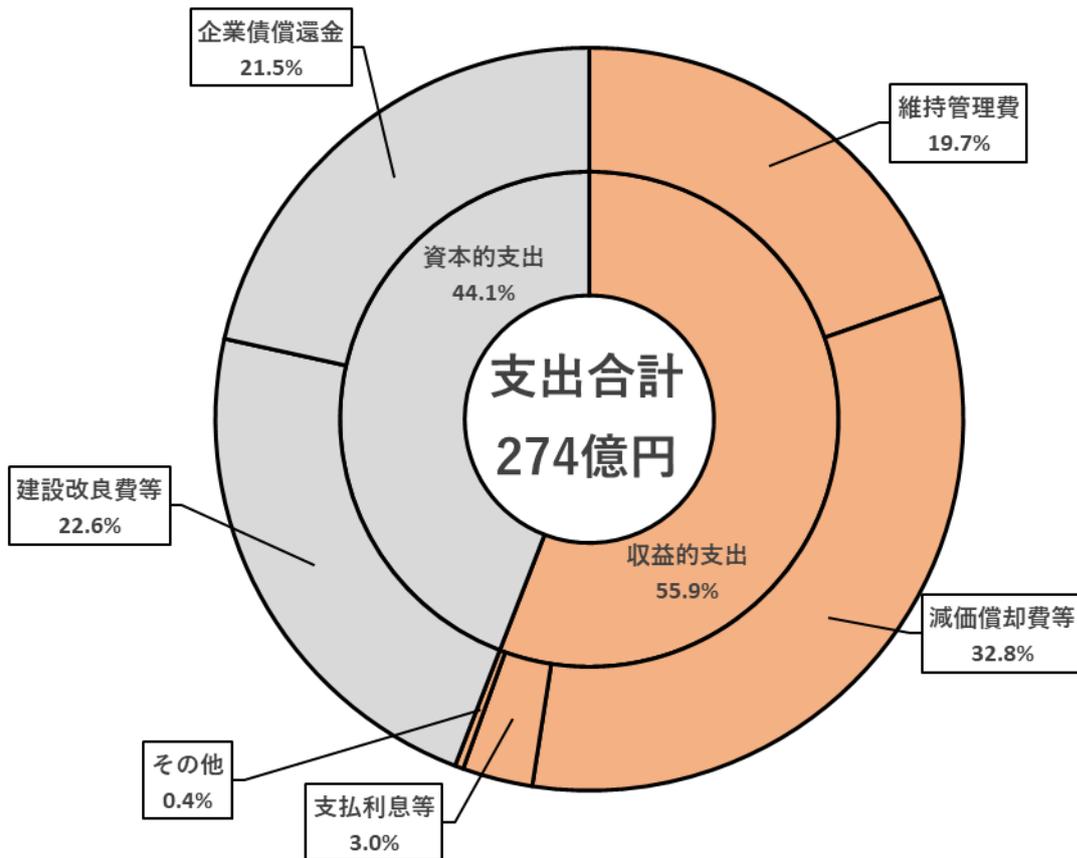
	内 容	金 額	割 合
収益的収入	下水道使用料	9,423	41.2%
	一般会計繰入金	3,857	16.9%
	国・県補助金	0	0.0%
	長期前受金戻入	2,515	11.0%
	その他収益的収入	18	0.1%
	計	15,813	69.2%
資本的収入	企業債による借入	5,207	22.8%
	他会計負担金	274	1.2%
	国・県補助金	1,474	6.5%
	負担金・分担金	45	0.2%
	その他資本的収入	29	0.1%
	計	7,029	30.8%
合 計		22,842	100.0%

## 3

# どんなことに使ったの？

維持管理費や建設改良費のほか、整備時に借り入れた企業債の返済やその利息の支払いに使いました。また、企業会計の特徴である「減価償却費」も大きな割合を占めました。

支出には、下水道施設の維持管理にかかる「収益的支出」と、下水道施設の整備や借入金の返済にかかる「資本的支出」があります。



(単位：百万円 税込)

	内容	金額	割合
収益的支出	維持管理費	5,375	19.7%
	減価償却費等	8,969	32.8%
	支払利息等	831	3.0%
	その他収益的支出	101	0.4%
	計	15,276	55.9%
資本的支出	建設改良費等	6,188	22.6%
	企業債償還金	5,887	21.5%
	計	12,075	44.1%
合計		27,351	100.0%

## 4

## 経営状況は？

## ○損益計算書

損益計算書は、1年間における経営成績を「収益」と「費用」で表すものです。収益から費用を差し引いたものを「当期純利益（マイナスのときは当期純損失）」といいます。

（単位：百万円 税抜）

	内 容	令和6年度	令和5年度	増減額	増減率
収 益	下水道使用料	8,567	8,560	7	0.1%
	他会計負担金	3,856	3,599	257	7.1%
	国・県補助金	0	22	△ 22	皆減
	長期前受金戻入	2,515	2,480	35	1.4%
	その他	18	32	△ 14	△ 43.8%
	計	① 14,956	14,693	263	1.8%
費 用	維持管理費	4,974	4,511	463	10.3%
	減価償却費等	8,969	8,834	135	1.5%
	支払利息等	831	919	△ 88	△ 9.6%
	その他	40	37	3	8.1%
	計	② 14,814	14,301	513	3.6%
	差引（当期純利益）	③ 142	392	△ 250	△ 63.8%

令和6年度の収益合計は、他会計負担金の増加などにより、約150億円(①)となりました。費用合計は、維持管理費の増加などにより、約148億円(②)となりました。よって、当期純利益は約1億4,200万円(③)となりました。



## ○貸借対照表

貸借対照表は、年度末（3月31日時点）の財政状態を「資産」「負債」「資本」で表すものです。

「資産＝負債＋資本」という関係性があります。

（単位：百万円 税抜）

	内 容	令和 6 年度	令和 5 年度	増減額	増減率
資 産	固定資産	234,012	236,930	△ 2,918	△ 1.2%
	現金預金	7,895	6,114	1,781	29.1%
	未収金	2,292	2,206	86	3.9%
	前払金等	1,354	768	586	76.3%
	計	① 245,553	246,018	△ 465	△ 0.2%
負 債	企業債	72,481	73,160	△ 679	△ 0.9%
	リース債務	42	41	1	2.4%
	未払金	2,699	2,191	508	23.2%
	引当金	58	56	2	3.6%
	預り金等	18	21	△ 3	△ 14.3%
	繰延収益	63,563	63,998	△ 435	△ 0.7%
	計	② 138,861	139,467	△ 606	△ 0.4%
資 本	資本金	99,581	99,581	0	0.0%
	剰余金	7,111	6,970	141	2.0%
	計	106,692	106,551	141	0.1%
負債・資本合計		245,553	246,018	△ 465	△ 0.2%

令和 6 年度の資産総額は、固定資産の減価償却が進んだことなどにより、約 2,456 億円(①)となりました。

負債総額は、企業債の残高が減少したことなどにより、約 1,389 億円(②)となりました。



## ○経営指標

経営指標とは、企業の健全性や収益性を数値で表すものです。

収益性を示す「経常収支比率」は100%を上回っており、1年間の収支は黒字となりました。一方、健全性を示す「経費回収率」は汚水処理に係る維持管理費等が増額したことにより、100%を下回りました。

項目	令和 6年度	令和 5年度	政令市 平均	望まし い方向	説明
経常収支比率(%)	101.0	102.7	103.5	↑	収益で費用をどの程度賄えているか
経費回収率(%)	99.4	104.0	102.7	↑	汚水処理に要する費用を下 水道使用料でどの程度賄え ているか
流動比率(%)	140.8	113.1	73.2	↑	1年以内に現金化できる資 産と負債の比率（短期的な 支払能力）
自己資本構成比率 (%)	69.3	69.3	59.2	↑	総資本（負債+資本）に対す る自己資本の割合
有形固定資産減価 償却率(%)	31.1	28.9	48.8	↓	法定耐用年数に近い固定資 産の割合
下水道使用料収納 率(%)	98.1	98.1	-	↑	調定額に対する収入済額の 割合
汚水処理原価(円)	117.6	112.2	137.3	↓	有収水量 1 m <sup>3</sup> 当たりの汚水 処理に要した費用

※1 各年度の翌年5月末時点での現年度収入額を同年度調定額で除して算出したもの

# 5

## その他

### ○「利益剰余金」の使いみちは？

事業経営から生じた利益（剰余金）は、企業債の返済に充てるための「減債積立金」と、大規模災害や使用料収入の落込みなどのリスクに備えるための「利益積立金」として、下水道事業に活用しています。

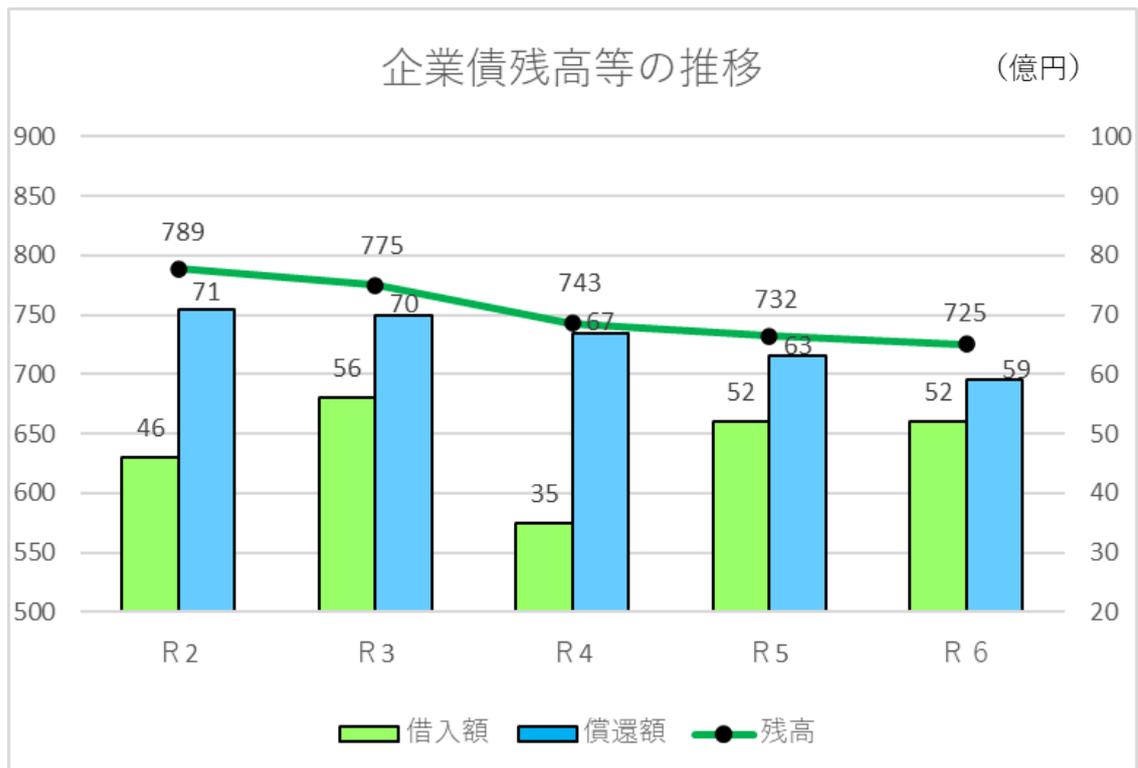
（単位：百万円）

	減債積立金	利益積立金	合計
令和5年度	5,010	1,000	6,010
取崩額	0	0	0
積立額	142	0	142
令和6年度	5,152	1,000	6,152

### ○なぜ借金するの？

下水道施設の整備には、多額のお金が必要なことから、一度に全額を支払ってしまうと、その他の業務に必要なお金が不足してしまいます。

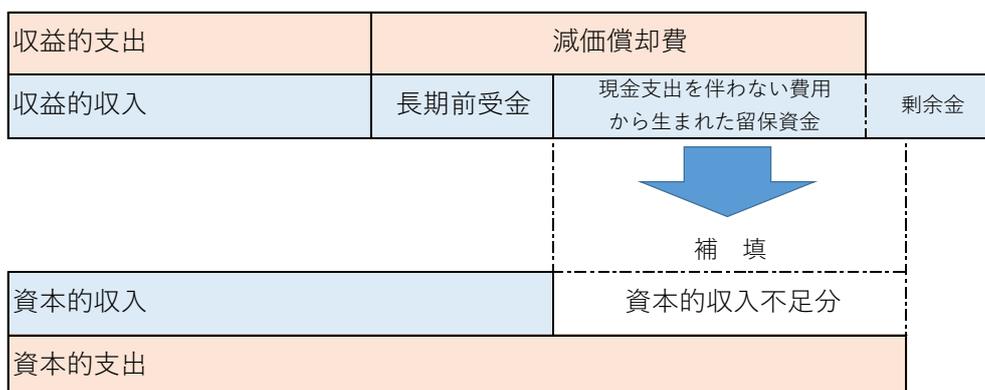
また、下水道施設は、長い期間、多くの市民が使用する施設であることから、将来の利用者にも公平に整備費用を負担していただくため、整備時には企業債を借り入れて、一定期間をかけて返済しています。



## ○資本的収入の不足を補填する仕組みは？

公営企業会計では、下水道施設の維持管理などに使うお金を「収益的収支」、下水道施設の整備などに使うお金を「資本的収支」と区別しています。資本的収入の不足分については、収益的収支の「剰余金」や「減価償却費」などから生まれる留保資金によって補填する仕組みとなっています。

資金の補填イメージ



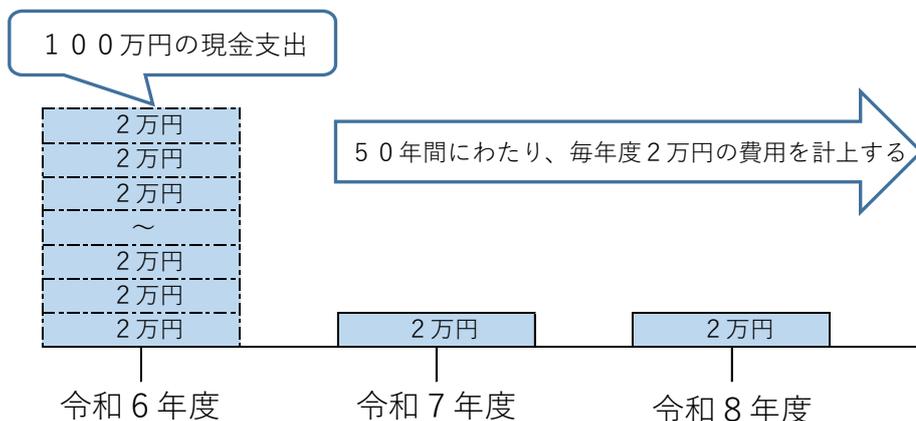
## ○「長期前受金戻入」「減価償却費」ってなに？

下水道施設の整備に関する収支を現金の収入・支出に合わせて計上すると、整備の多い年と少ない年で収支（経営成績）にばらつきが生じるため、会計期間の比較ができず、企業の経営状況を的確に把握できません。

このため、整備時の現金収入（補助金等）や現金支出（工事費等）を、下水道施設の耐用年数（最長50年）に応じて「長期前受金戻入」や「減価償却費」として期間配分（平準化）して、収支に計上しています。

「長期前受金戻入」や「減価償却費」は、整備時、すでに現金の収入・支出が終わっているため、「現金の収入を伴わない収入・費用」とも言われています。

（例）令和6年度に100万円の下水道施設（耐用年数50年）を建設した場合



※長期前受金戻入の場合は、建設時の現金収入を50年間にわたり収益として計上します。

## 令和6年度に実施した主な事業

### 雨水浸水対策事業 3億4,900万円

「相模原市緊急雨水対策事業実施計画」等に基づき、当麻地区及び鶴野森地区の雨水管整備工事等を実施しました。

計画期間 H27～R6年度

対象箇所 15箇所

対策済 12箇所

対策中 3箇所

### 耐震化事業 13億2,300万円

「相模原市下水道施設地震対策事業計画」に基づき、境川第14-I雨水幹線、氷川雨水幹線、境川28-I雨水幹線等の耐震化工事を実施しました。

計画期間 R6～R11年度

計画延長 18.2km

整備延長 4.8km(約26%)

### 長寿命化事業 5億800万円

「相模原市下水道施設維持管理計画」に基づき、磯部地区マンホールポンプ更新工事、当麻地区雨水調整池ポンプ更新工事、上鶴間地区汚水ポンプ場の長寿命化更新工事等を実施しました。

### 生活排水処理対策事業 24億5,900万円

水源の汚濁防止や下水道未普及地域の生活環境の保全のため、津久井地域等の下水道整備や汚水ます及び高度処理型浄化槽の設置工事を実施しました。

[津久井地域] 計画 整備率(R6年度末)

公共下水道 581ha 504ha(86.7%)

高度浄化槽 4,480基 1,556基(34.7%)

### 合流改善事業 7億4,200万円

「相模原市公共下水道第10処理区分分流化実施計画」に基づき、公共用水域の水質を守るため、相模原地区の下水道を雨水と汚水に分流化する工事を実施しました。

完了年度 R22年度予定

事業対象区域 約393ha

整備率(R6年度末) 約289ha(約73.6%)

### 維持管理事業 53億7,500万円

市内の下水道施設の維持管理のほか、「相模川流域下水道」の施設維持管理費用を負担金として支払いました。

公共下水道 50億9,100万円

(うち流域下水道 31億5,400万円)

農業集落排水 1,900万円

高度浄化槽 2億6,500万円



相模原市都市建設局土木部下水道経営課  
〒252-5277  
相模原市中央区中央2丁目11番15号  
電話042-707-1890